

# 島津賞に小林氏

電通大特任教授 高分子観測で

島津製作所が設立した島津科学技術振興財



団(京都府)は本年度の島津賞に電気通信大の小林孝嘉特任教授(65)(量子・物質工学) Ⅱ

写真Ⅱを選び、8日発表した。若手研究者を対象に研究開発助成をする11人も決めた。来年2月19日に京都ホテルオークラ(中京区)で表彰式を開く。

同賞は科学技術の基礎研究で功績を挙げた研究者を対象で29回目。受賞者に副賞300万円が贈られる。

小林教授の受賞業績は「極限的超短パルス光レーザーと超広帯域高感度検出系による極限的時間分解分光法の開発」。

時間的長さが1千兆分の4秒と世界最短のレーザー光を発生させることに成功し、この照射でタンパク質など高分子の分子レベルの反応状況を観測

するシステムを開発した。

研究開発助成金は一人あたり100万円。

(甲賀史郎)

対象者は次のみならず。

浅沼俊彦大阪大特任講師、木口賢紀東北大准教授、木村佳文京都大准教授、末吉健志京都大助教、徳田規夫金沢大助教、鳥羽陽金沢大准教授、中川誠司産業技術総合研究所主任研究員、鳴海康雄東北大准教授、船曳和雄大阪バイオサイエンス研究所研究副部長、藪上信東北学院大准教授、山田健一九州大准教授

京都新聞(朝) 12/9/2009

# 島津賞に小林氏

電通大特任教授

島津科学技術振興財団  
(京都市、理事長・岡本  
道雄京都大名菅教授)は

8日、科学計測の基礎研究で成果を上げた研究者を表彰する2009年度の島津賞に電気通信大の小林孝嘉特任教授(65)を選んだと発表した。自身が開発した世界最短の照射時間を持つパルスレーザーで複雑な分子の変化を測定する「遷移状態分光法」を確立したことが評価された。

授賞式は来年2月19日に京都市内で開き、副賞300万円を贈る。

45歳以下の若手研究者を対象とする研究開発助成には大阪大学の浅沼俊彦特任講師ら11件の研究を選定。1件当たり100万円を助成する。

# 島津賞に小林孝嘉氏

島津製作所が設立した島津科学技術振興財団は8日、科学計測の基礎研究で著しい成果のあった研究者を表彰する2009年度の「島津賞」に、小林孝嘉・電気通信大学特任教授(65)を選んだと発表した。副賞は300万円。10年2月19日、京都市内で表彰・贈呈式が開かれる。

小林特任教授は、4フェムト秒(1フェムト秒は1千兆分の1秒)間だけ光るレーザーを開発し、化学反応の経過を測定する「遷移状態分光法」を確立した。

↑  
日経新聞(朝)  
12/9/2009

↑  
朝日新聞(朝)  
12/9/2009